教職員情報 2005年6月

理学部附属 植物園のいきものたち 第24回

▲写真1　サワガニ

今回は淡水産の甲殻類を2種紹介する。植物園内には水生生物の棲める環境は多くないが、注意してみるといろいろいるものである。写真1はサワガニ。山間の渓流に生息するカニで、街中ではあまりお目にかかれない生き物である。植物園の東の端から池にかけて疎水から引いた水の流れる小さな水路があるが、サワガニはこの周辺に生息していて、見つけるのは容易である。陸上で見られるカニのうちアカテガニやモクズガニは海まで降りて産卵するが、このサワガニは陸上（淡水環境）で生活史を全うする。プランクトニックな幼生期がなく、孵化した仔ガニはしばらく母親のおなかに抱かれて育つ。江戸時代の本草本には石蟹、山蟹、谷蟹などの名で記載されていて、サワガニの名は「本草綱目啓蒙」に水戸地方の呼び名として出てくる。十世紀の「倭名類聚鈔」には石蟹は海際の石の下にいると書かれているのでこれは明らかにサワガニではない。石蟹がサワガニを指す言葉になったのはそれより後の時代であるらしい。「大和本草」には「是亦不可食、野人ハ食フ」と書かれていて、あまり上品な食材とされていなかったことが窺える。

写真2はアメリカザリガニ。戦後に食用ガエルの餌用に輸入されたものが野生化した典型的な外来生物であるが、もはや日本の自然の一部として定着した感がある。戦後の食糧難の時期には食料としても利用されたらしい。植物園では池の中や研究棟の北側の水槽の中に生息している。池にいるものは穴の中に隠れていたりして見つけにくいが、水槽にいるものは水面の浮遊物を摂食するために水面直下に出てくるので観察しやすい。エビ・カニ類は分類学的には近縁であるが、江戸時代の本草本ではエビは魚類、カニはカメと同じ介類に分類されている。食料としての重要度が違っていたせいであろうか。

▲写真2　アメリカザリガニ

写真・解説　樋上正美